



一人の声を大切に、
安心して住み続けられるまち松原の実現を！！

松原市議会議長 三重松 清子

あけましておめでとうございます。
市民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
また旧年中は、市議会の活動に対しまして温かいご理解とご支援を賜り、心からお礼を申し上げます。昨年9月の市議会議員選挙におきまして、新たにご信任いただきました18人の議員につきまして、今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。
さて、昨年は、大阪に多大な被害を与えた台風21号をはじめ、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震などあらためて自然災害の脅威を感じた年でありました。被災されました皆さまに心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。
明るい話題といたしましては、メジャー挑戦1年目で、アメリカでセンセーションを巻き起こした二刀流の大谷翔平選手、日本人初の四大大会制覇を成し遂げたテニスの大坂なおみ選手の活躍、がんの免疫治療薬開発に道を開いた功績によりノーベル医学生理学賞を受賞した京都大学特別教授本庶佑氏など、スポーツ、科学技術などの各分野において、世界で輝く日本人に誇りを感じます。
また、2025年万博の大阪開催が決まり、内外から多くの人々が来阪されることが予想され、大阪経済の起爆剤となることが期待されています。
さて、市議会におきましては、地方創生が唱えられる中、人口減少という課題に正面から向き合い、しっかりと取り組んでいく必要があります。今後、さらに地方自治体の力が試される時だと思っております。
このような中、住民に最も身近な基礎自治体として、多様化する社会・経済情勢の変化を的確に把握し、市民と行政を結ぶかけ橋として、一人の声を大切に、「安心して住み続けられるまち松原」の実現に決意を新たに邁進して参ります。
どうか、本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。そして、この一年が市民の皆様方にとりまして幸多き年になりますよう心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



魅力あふれるまち、松原市に向けて

松原市長 澤井 宏文

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年は、本市が大阪初となるWHOセーフコミュニティ国際認証都市として5年が経過し、再認証の審査を受け、審査員からは市民の皆様との「検証」と「協働」の取り組みに対し高評価をいただき、再認証を取得することができました。この再認証を本市のセーフコミュニティの新たなスタートとして、「協働」によって安心・安全を守る取り組みをさらに加速させたいと思います。
また、本年はこのセーフコミュニティに加えまして、市内全中学校・小学校がインターナショナルセーフスクール (ISS) の認証に向けて着手いたします。ISSとはいわば学校版のセーフコミュニティとして、本市の未来を担う子ども達が学校内での心や体のけがの原因となる事故、いじめ、暴力を予防するために自ら話し合い、それを取り除くことで学校の安心・安全を作り上げていく取り組みです。必ず次世代の協働の担い手となって松原市の10年後、20年後、30年後の未来を見据えた、安心・安全の取り組みであると確信しております。
さらに、本市に「住んでみたい」「住んでよかった」と思っていただけのように、大型商業施設の誘致や道路の整備、図書館の建て替え、小中学校教室への空調設備の整備、また松原市観光協会と連携し、市の魅力発掘や発信などの施策に「スピード」を持って取り組んでまいります。そのことによって、まちに賑わいをもたらし、人口を獲得することで、住んでいる人が躍動し、魅力あふれるまちになると考えます。
来年には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が行われ、2025年には万博が大阪で開催されます。このような国内外からの多くの来訪者が訪れる大きなイベントに向けて、本市の魅力をさらに発信していきたいと考えております。
どうか皆様には、今後ともまちづくりに対してご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、本年が皆様にとりまして、幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。